

保護者の皆さまへ

令和5年1月26日(木)  
学校法人成田学園  
希望ヶ丘こども園  
園長 相楽 悦子

## SDGsだより No. 1



日頃より本園の教育・保育活動にご理解・ご協力をいただきましてありがとうございます。本園の教育・保育活動は教育・保育の基盤であるSDGsの視点を重視し実践しています。これらの実践が認められ令和3年度福島議定書において、本園はSDGsを推進している先駆的な園として**最優秀賞**に輝きました。

SDGsの取り組みの一つとして子ども達は、水を大切に使うことを毎日心がけています。「水を出しっぱなしにしない」、「歯磨きの時にはコップに半分の水を入れてすすぐ」、「手洗いの時には石鹸の泡を流すときにだけ水を出す」など実践しています。保護者の皆様のマイボトル登園のご協力のおかげで子ども達は、水を大切に飲んだり、「ペットボトルや紙コップを減らすことが地球を守ること」と話してくれたり深い学びをする子ども達にもなっています。

このようにSDGsを小さいころから子ども達一人一人が身近なところから取り組むことが、子ども達の明るい未来につながる大事なことだと言われています。SDGsに興味・関心を高め、子ども達の明るい未来のために園では、SDGsに関連する下記のような絵本を、子ども達と一緒にいろいろな機会に読んでいます。ご家庭でも子ども達への読み聞かせの本として参考にさせていただきたいと思いご紹介いたします。保護者の皆様の中でSDGsに関するステキな本がありましたら園にお知らせください。これからも子ども達が「気持ち、考え、実行する」主体的な子ども達になるよう、保護者の皆様のご協力を賜わりながら、楽しい園生活を送らせたいと考えております。

### 1. 貧困をなくそう



「パンのかけらとちいさなあくま」(福音館書店)

内田 莉莎子/再話

SDGsの1つめの目標に「貧困をなくそう」があります。お腹いっぱいご飯を食べること。毎日違う服を着ること。あたたかな布団で眠ること。私たちにとっては普通のことですが、世界にはこれらのことができない人がたくさんいます。

その原因が貧困です。貧困の原因は仕事がないこと、病気や怪我をしていること、戦争が起こっていることなど様々です。世界で起きている貧困に目を向け、知識や理解を深めることが、私たちができる取り組みの第1歩です。子どもたちと一緒に考えたいと思います。



## 2. 飢餓をゼロに



「はらぺこゆうれい」(童心社) せなけいこ/作

SDGsの2つめの目標に「飢餓をゼロに」があります。世界には食事を満足に食べられない人々が多くいます。子どもたちには世界にこういった飢餓が存在することや、ご飯が食べられるありがたさを伝えたいと思います。また自分の食べきれぬ量を子ども自身が把握できるようになることは、食品ロスの解消につながります。ご家庭でも子どもに「どれくらい食べられる？」とたずねてみてくださいね。



## 3. すべての人に健康と福祉を



「アントンせんせい」(講談社) 西村敏雄/作

SDGsの3つめの目標に「すべての人に健康と福祉を」があります。近年は感染症の拡大で、より健康の大切さ実感するようになりました。感染症を予防するためには手洗いやうがいがとても大切です。そして予防は、自分だけでなく、まわりの友だちや家族を守ることもつながるのだと伝えていきます。豊かな社会を築くためには、生きる人々の心と身体が健康でなければならないということをご家庭でも話してみてください。



## 4. 質の高い教育をみんなに



「となりのしげちゃん」(小学館) 星川ひろ子/著・文

SDGsの4つめの目標に「質の高い教育をみんなに」があります。子どもたちに「小学校に行ったらなぜ勉強をするのかな」と問いかけました。「消防士になりたいから」「たくさん本を読みたいから」など様々な答えが出ました。世界には貧困や制度が整っていないなどの理由で、学ぶ機会を奪われている子どもが多くいます。読み書きや計算ができないまま大人になると、生活をするこも、仕事や働き方を選択することも難しくなります。日頃からご家庭でも、学ぶことの大切さを子どもと話してみてください。



## 5. ジェンダー平等を実現しよう



「おによりつよいおよめさん」(岩崎書店)  
井上よう子/作

SDGsの5つめの目標に「ジェンダー平等を実現しよう」があります。「やっぱり男の子は車が好きだね」「女の子だからフリルの洋服が似合うね」など、肯定的に使っているつもりでも、気づかないうちに「男の子・女の子はこういうもの」という意識を子どもに植え付けている場合があります。性別で子どもを型にはめず、「その子らしさ」を尊重した言葉を伝えたいですね。



## 6. 安全な水とトイレを世界中に



「しずくのぼうけん」マリア・テルリコフスカ/作

SDGsの6つめの目標に「安全な水とトイレを世界中に」があります。災害で電気や水道が使えないこともあるという話から、手洗いやトイレの際、ペットボトルに汲み置きした水を使ってみました。「こんなに使うんだね」と驚いた様子の子もたち。給食後に水道を使って歯磨きすると、水のありがたさを改めて感じたようで、慎重にコップに水をためていました。災害時にも役に立つので、ご家庭でも実践してみたいはかがでしようか。



## 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに

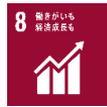


「でんきのビリビリ」(そうえん社)  
こしだミカ/作

SDGsの7つめの目標に「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」があります。コンロの火がつくのも、お風呂のお湯が出るのも、エアコンから冷たい風が出るのも、全てエネルギーが必要、ということ。無駄使いすると地球に負担をかけてしまう、ということをお伝えしました。子どもと一緒に家庭で使われるエネルギーについて見直し、省エネにつながる取り組みを考えてはいかがでしょうか？



## 8. 働きがいも経済成長も



「そのこ」 谷川俊太郎/詩

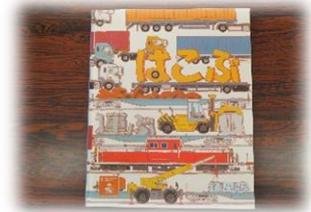
SDGsの8つめの目標に「働きがいも経済成長も」があります。よい機会なので、給食の調理師の仕事について話を聞きました。苦勞は「ずっと立っているので腰が痛くなること」。喜びは「作った給食が空っぽになって返ってくること」だそうです。子どもたちは真剣な顔で話を聞いていました。ご家庭でも働くことや仕事について、子どもと話してみてください。大人も改めて考えることや気付くことが多くあるでしょう。

## 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう



「はこぶ」(教育画劇) 鎌田 歩/作

SDGsの9つめの目標に「産業と技術革新の基盤をつくろう」があります。新しい技術を開発し、産業を築き、すべての人の生活を向上させよう、という目標です。子どもたちに「どんなものがあったら便利かな？」と問いかけると「天気を好きに変えられるもの」「ケン力がなくなるもの！」との答え。さすが！このような子どもたちの自由な発想から新しい技術が生まれるのですね。ぜひご家庭でも話してみてください。



## 10. 人や国の不平等をなくそう



「ねずみのすもう」(偕成社) 神沢利子/文

SDGsの10こめの目標に「人や国の不平等をなくそう」があります。世界にも日本にも、生まれた場所や身体の特徴、性別など様々なことを理由に差別が存在します。経済的に恵まれない人、少数派の人などが差別の対象になる傾向があります。どのような立場でも対等な関係を築けるよう、私たち大人はいつも自分自身に問わなければならないと思います。どんな違いがあっても、笑顔を交し合う子どもの姿から、大人は学ぶことがたくさんありますね。



### 11. 住み続けられるまちづくりを



「ちいさいおうち」(岩波書店)

バージニア・リー・バードン/文 石井桃子/訳

SDGsの11こめの目標に「住み続けられるまちづくりを」があります。どんなまちに住みたいか、子どもたちに聞いてみました。「花がたくさんあるまち」「広い公園がたくさんあるまち」などと子どもたちの意見から、住み続けたいまちのイメージは子どもも大人も同じように感じました。ご家庭でもぜひ話をしてみてください。



### 12. つくる責任 つかう責任



「もったいないばあさん」(講談社) 真珠まりこ/著

SDGsの12こめの目標に「つくる責任 使う責任」があります。生活の中でゴミはどうしても出てしまうものですが、まだ食べられる食べものや使えるものを放棄してゴミが増える問題は深刻です。ゴミの中にはリサイクルが可能で資源になるものもあります。ご家庭でもリサイクルでゴミを子どもと一緒に分別したり、「まだ使えるかな?」と一緒に考えたりすることからはじめてみてはいかがでしょうか。



### 13. 気候変動に具体的な対策を



「365まいにちペンギン」(ブロンズ新社)

ジャン＝リュック／フロマンタル 石津ちひろ/訳

SDGsの13こめの目標に「気候変動に具体的な対策を」があります。経済活動の代償として温暖化が進み、台風や豪雨など様々な異常気象を引き起こしています。国に対策を任せただけでなく、個人にもできることがあります。例えば電気をこまめに消す、自動車ではなく電車や自転車を使う、などです。美しい自然や四季、季節の花や旬の食べもの。私たちが享受してきたものを、子どもたちへも残すために、できることから取り組むことが必要ですね。



## 14. 海の豊かさを守ろう



「プラスチックのうみ」(小学館)  
ミシェル・ロード/作 川上拓士/訳

SDGsの14こめの目標に「海の豊かさを守ろう」があります。人間が出したゴミや汚れた水が海に流れ込み、海の環境を悪化させていることが問題になっています。島国である日本は海に囲まれ、昔からその恵みをおおいに受けてきました。絵本や図鑑などを見て、海や海にすむ生きものを守れるか、子どもたちと考えたいと思います。ご家庭でも海や水族館に行き、海に親しむ機会を作ってみてはいかがでしょうか？



## 15. 陸の豊かさを守ろう



「山はしっている」(鈴木出版)  
リビー・ウォルデン/作 横山和江/訳  
「たんぼぼたいへん！」(鈴木出版)  
シャーロット・ミドルトン/作・絵

SDGsの15こめの目標に「陸の豊かさを守ろう」があります。地球には人間だけでなく、様々な生きものが生きています。それなのに、むやみに木を切ったり、動物を商売の道具にしたり、人間の勝手な行動によって生態系のバランスが壊されているのです。公園や広場に行くと、園では見られない植物や生きものを目にします。そのすみかを汚したり、奪ったりしていいわけがありません。自然と触れ合っていて遊ぶ中で、子どもはそのことをおおいに学んでいると思います。



## 16. 平和と公正をすべての人に



「せかいのひとびと」(評論社)  
ピーター・スピーアー/文 松川真弓/訳

SDGsの16こめの目標に「平和と公正をすべての人に」があります。世界には戦争や紛争が起きている国や地域がたくさんあります。また、日本の中でもいじめや犯罪、虐待など、様々な暴力が起きています。大切に育てられた子どもは、自分自身のことも自分以外の人のことも大切にできる人間に成長していきます。子どもたちに愛情をたくさん注ぐことが、世界の平和につながると考え、私たちは今後も教育・保育に力を入れていきます。



## 17. パートナーシップで目標を達成しよう



「てをつなぐ」(金の星社) 鈴木まもる/作

「もりのおふろ」(福音館書店) 西村敏雄/作

SDGsの17こめの目標に「パートナーシップで目標を達成しよう」があります。パートナーシップとは、立場や地域を越えてみんなで協力することです。世の中にはいろいろな考えがあり、違いがあります。自分とは違う考えであっても、相手の話をよく聞きその考えも大切にすることがパートナーシップを築く第1歩。違うものを排除するのではなく、「素敵だね」「いろいろな考えがあるんだね」と耳を傾け受け入れられるよう、私たち大人が見本になりたいですね。



---

キリトリセン

ご家庭で、SDGsのこんなことに取り組んでいるよ！ということがあればご紹介ください。

組 園児名

---